

令和元年度 第2回学校関係者評価委員会議事録

日 時： 令和2年2月26日（水） 14:00～15:30

場 所： 函館短期大学付設調理製菓専門学校学生ホール

参加者： 五十音順

本校PTA会長	小野 浩司 様
本校同窓会長	小林 泰男 様
ラビスタ函館ベイ料理長	酒井 諭 様（欠席）
フード・コミュニケーション代表	高村 亨 様
函館割烹調理師会函館支部長	正根 嗣典 様
本 校：	山本仁志（校長）、 吉田 徹（教頭） 伊藤美樹（教務主任）、松崎正浩（事務長）

内 容：

1. 令和元年度後期事業活動報告について

① フードサービス実習（9月）	発表者 伊藤美樹
② 地域貢献活動	発表者 山本仁志
③ 日本料理短期研修	発表者 山本仁志

2. 学生の学習状況等について

① 製菓衛生師国家試験の結果	発表者 伊藤美樹
② 就職内定状況	発表者 伊藤美樹
③ 実習・技術試験に関して	発表者 吉田 徹

3. 修学支援新制度について	発表者 松崎正浩
----------------	----------

4. 質疑応答

5. 委員より本校への意見・要望について

質疑応答と委員からの意見要望を併せて進行する

委員 日本料理短期研修のアンケート回答に「日本料理の調理技術についてもっと知りたい。」とあるが、この点について伺いたい。

山本 昨年度の研修は、at-sunrice（シンガポールの調理製菓専門学校）の20代の学生・卒業生20名で実施した。その時のアンケートでは、「もう少しゆとりが欲しい」、「観光的なものがあった方が良い。」等の意見があり、今年度のプログラムに反映させた。しかし今年度は、at-sunriceを卒業した40～60代の参加者だったため、研修に求めるものが違った。それが今回のアンケート結果に出たものと考えている。

委員 研修の申し込み段階で分からないものなのか。

山本 今年度は、at-sunrice の研修担当者が参加してくれたので、来年度以降は対応しやすくなると考えている。

委員 私も、日本料理短期研修のアンケート結果に関心を持って見た。プロの通訳をお願いしたことにより、研修生の満足度が上がったと思う。調理の内容を理解し通訳してくれたので、実習担当の先生の思いも伝わったと思う。

研修生は、観光ではなく、本校を通じてでなければ経験することが出来ないものを望んでいると思う。同窓会としても、今後の展開を期待している。

委員 日本料理短期研修の期間に関しては、どの様に考えているか。

伊藤 本校としては、在校生の授業と並行しての研修のため、現時点では1週間が良いと考える。今年度は、急遽対応した学生のだし巻き卵の実演に、研修生が感動した。研修生との交流として、今後は在校生の技術も見せていきたい。

山本 研修に関して、本校ではこの様に考えこの内容で実施したいと at-sunrice に伝えながら、連携していきたい。しかし、新型コロナウイルス感染が4~5月まで長引けば、来年度の開催が心配となる。

山本 現在、本校にとって最大の課題は「学生数の増加」である。来年度の入学者数は本日現在、調理師科は今年度より7名増加、製菓衛生師科は今年度と同数となっている。まだまだ満足できるような状況ではないが、今年度の入学者が底となるよう努めていく。

委員 学生増にむけ、現場においても調理製菓の仕事は厳しそうというイメージを解いていかなければと思う。

委員 学生増のために、函館賞味会の対象範囲を札幌まで広げてみてはどうか。ハードルは高いかもしれないが、札幌からの学生募集を検討してはどうか。

山本 渡島総合振興局との連携強化を図り、道南だけではなく胆振地区まで広げようかと検討してみたが、現在の人員態勢では手が回らない状況。もう少し時間をかけ、検討していく。

委員 青森方面への検討はあるか。

山本 現在、弘前大学との連携事業を通じて、青森方面への学生募集には力を入れている。函館賞味会の対象にするかは別として、青函圏として重要地域として認識している。

伊藤 フードサービス実習のお客様の範囲を広げてはとも思う。

吉田 今年度は、ある高校の3年生27名を対象にテーブルマナーとフルコースの対応をした。本校の学生の動きも見せることができた。この様な積み重ねを、学生募集に結び付けていきたい。

山本 全ての高校に対して同じように対応することはできないので、特化した繋がり
の強い高校との関係強化を今後も進めていく。

委員 修学支援新制度の内容は、高校にどの程度浸透しているか。

山本 今年度は、各高校によって随分差があったと感じた。来年度からは、高校の
対応も変わると思うし、こちらも高校訪問時に内容をアピールしていく。本校
にとって、とても有効な制度と考えている。

委員 地域別の就職状況はどうか。その他、特徴的なことはあるか。

伊藤 年々、函館市内の就職が増えている。今年度は札幌もいたが、3分の2は函
館市内だった。ホテル関係が多く、寮に入りたがらないのか旅館関係は少ない。
最近の学生は、お金よりも休日をメインに考える。また、給食業界が給料を上
げてきている。和洋中でいえば、今年度は洋食が中心。

山本 来年度も年2回、委員としてこの様にご意見を伺うことは大丈夫でしょうか。

出席委員全員 大丈夫です。

委員の皆様の見解を今後の教育活動に反映していくとの校長からの感謝の言葉
で委員会を終了。